

新宮町立花口区の古民家認証に関する研究

九州産業大学 学生会員 萩原和歩 九州産業大学 正会員 山下三平
九州産業大学 栗田融・松野尾仁美・大庭知子・福山秀親・木村隆之

1. はじめに

近年全国的に少子高齢化が進んでいる。福岡県糟屋郡新宮町の立花口地区も例外ではなく、農家の後継者不足から空き家の増加が顕在化している。

立花口区の集落は立花山城の城下町であったことから山麓の傾斜地に築 100 年を超える伝統的家屋や石垣が残存するなど歴史的資源が多い。地区の活気を取り戻し持続させ続けるには歴史的資源の実態を踏まえ古民家を活用するなどの方策が必要である。

本研究は古民家認証制度で成功した金沢市の「金澤町家」や全国の古民家保存活用の制度を調べる。一方立花口区の家屋と住民の認識についての調査¹⁾の分析を進める。また、立花口区の古民家認証と実施事項について若干の考察を行うことを目的とする。

2. 研究方法

本研究はまず現地調査と既往研究より立花口区の実状を把握する。つぎに金澤町家や全国の認証制度を照会する。そのうえで立花口区の古民家認証基準と認証制度導入の要点を記述する。

(1) 立花口区の現状

既往研究¹⁾と現地調査より立花口区内の民家の建築年代や特徴を把握する。また昨年度実施した認証制度活用のための住民意識調査アンケート²⁾の分析を進める。さらに新宮町役場・新宮おもてなし協会へ立花口区での取り組みについてヒアリングをする。

(2) 金澤町家の認証制度

金沢市では金澤町家の認証制度が古民家活用に役立っている。新宮町立花口区で金澤町家の認証制度³⁾を応用できるかを調べるために文献調査をする。

(3) 全国の認証制度

全国の認証制度、伝統的建造物群保存地区の認証基準、および主に古民家の活動を行っている団体や行政の取り組みをインターネット等で調査する。

3. 立花口区古民家認証導入に関する調査結果

(1) 実態の把握

沿道にある 80 軒の家屋のうち昭和 25 年の建築基

準法施工以前に建設したとされるものは 16 軒あり古くから残る長屋門 (図-1) が 10 件、レンガ積みの外壁や塀が 6 件見られた。立花山登山口の明治 33 年に建てられた古民家は新宮町東部地区の情報発信拠点施設「こみんかみかん (図-2)」として令和 3 年 10 月に誕生した。既往研究¹⁾では立花口区に現存する古民家の認証基準設定のための基礎資料とすることを目的に古民家の外観調査、家屋台帳による年代確認、認証基準設定のため有識者からの聞き取り調査が行われた。現在外観調査で対象とした建物 1 件がすでに解体されている。

文献 1 では以下の認証基準が考えられている。

- (ア) 長屋門は全て認証する。
- (イ) 長屋門が敷地内に存在する場合、戦前に建築されたもの昭和 30 年代頃までに建築され伝統様式に則った主屋は認証する。
- (ウ) 長屋門が敷地内に存在しない場合でも、検討して定めた基準に該当する主屋は認証する。



図-1 長屋門



図-2 こみんかみかん

(2) 住民意識調査アンケートの分析

金澤町家の認証制度の形式を参考に、立花口区の古民家保存・活用のため同様の試みを行う。そのために昨年 11 月、金澤町家に類似した認証制度を立花口区に導入することについての住民の反応と、持ち家の扱いについて問う意識調査を実施した²⁾。

表 1 建築年別住まいの伝統文化的な価値について

	1940年代以前	1950年代	1970年代	1980年代	1990年以降	合計(件)
価値がある	2	0	0	0	1	3
価値がない	3	0	1	3	13	20
どちらともいえない	3	3	4	3	4	17
回答なし	0	0	0	0	1	1

表 2 建築年別「金澤町家」の認証制度への興味

	1940年代以前	1950年代	1970年代	1980年代	1990年以降	合計(件)
興味がある	1	2	1	2	7	13
興味がない	7	1	4	4	11	27

住まいの伝統文化的な価値について価値があると答えた人は全体の 7.1% (3 件) と非常に少ない (表-1)。建築年数が 50 年を超えるものは 11 件ありそのうち 3 件が金澤町家の認証制度に関心を示した (表-1,2)。金澤町家の認証制度に関心を持つ人の多くは 1990 年以降に建築された住まいを持つ人が最も多い。

表 3 これからの扱い方と維持管理

	維持管理の負担が大きく 手放すことを考え始めた	回答なし	合計
次世代まで受け継いでほしい	0	1	11
自分たちの代まで維持	0	1	17
自分たちの代のうちに手放す	1	1	2
空き家の状態で維持	1	1	2
その他	0	0	1
合計	2	4	33

これからの自宅の扱いについて手放すことを考えている人、空き家の状態で維持したいという意見が 3 件存在する (表-3)。そのうち 1 軒は 1940 年代以前に建てられたものである。

(3) 金澤町家の認証制度

金澤町家の中には再生活用の可能性があるにも関わらず解体に至る場合が多いことが課題であった。平成 31 年 4 月に金澤町家条例を改正し、市長が認めるものを『特定金澤町家』として登録している。しかしそれ以外にも貴重だが評価が難しい古い建物が喪失の危機に直面している。こうした建物の保存のために、専門家らによる研究会がかなりクオリティの高い認証プレートを作成して、ひろく保存活動を進めている³⁾。

金澤町家は昭和 25 年以前に建てられた歴史的建造物で町家・武家屋敷・近代和風住宅を指し、特徴的な意匠の「サガリ」はほかの町家ではみられないものである。

(4) 全国の認証制度

全国の都道府県や市町村、民間団体が行っている認証条件の特徴を表-4 に、金澤町家に類似した認証制度を導入している『ふくいの伝統民家認証制度』の基準を表-5 にまとめた。

表-4 全国の認証制度の認証条件の特徴

名称	23世紀に残す佐賀県遺産	むらかみ町家
所在地	佐賀県	新潟県村上市
団体	佐賀県遺産会議 (佐賀県)	村上町家商人会
特徴	国・県の文化財は既に保存制度があるため十分な保存制度のない国の登録有形文化財、市の文化財が対象	平入りうなぎの寝床 種階段

表-5 ふくいの伝統的民家認証制度の基準

ふくいの伝統的民家	
共通事項	在来工による木造 2 階建て (小屋裏 3 階建含む) 1945 年以前の伝統的民家の意匠を基調
農家型民家	妻壁を柱と梁で格子状とした漆喰の切妻屋根
町家型民家	格子戸等町家の伝統的意匠を基調とした切妻屋根
その他	地域固有の形態を持つ民家は個別で審査委員会で承認

住居は歴史的な意匠に加え色の統一感など複数の建物が一括して認証される傾向にある (表-4,5)。長屋門や薬医門、武家屋敷門等は行政主体の認証制度の一つである (表-6)。

表-6 長屋門・薬医門・武家屋敷門の認証基準の実例

	長屋門	武家屋敷建築の主屋
雲仙市神代小路	生垣・石垣	水路
杵築市北台南台	長屋門・薬医門	家臣の屋敷地
	石垣	茅葺・瓦葺
日南市鉄肥	長屋門・その他門	武家屋敷
	石垣 (鉄肥石・玉石)	生垣
出水市出水麓	武家屋敷門	玉石垣・生垣
南九州市知覧	武家門	生垣・石垣

4. まとめと若干の考察

本研究では立花口区に残る歴史的建築物を保存するため金沢市の金澤町家や全国の認証制度を参考に立花口区独自の認証制度基準とその導入について検討した。全国の認証制度を参照すると、地域により認証基準は緩いものから厳しいものまで幅広い。金澤町屋は武家屋敷を対象とし行政主体の認証制度と比較すると比較的低いハードルで認証基準を設けるなど自由度が高い。金澤町屋では認証プレート設置による認証制度の波紋効果が得られており残存する歴史的建築物の保存活動に寄与している。

立花口区では 2021 年度より認証プレートの作成が開始され、立花家関係者に揮毫を依頼し 2022 年 12 月に完成した (図-3)。農家型民家である立花口区の伝統様式について今後調査する必要であるが金澤町屋の認証制度に立花口区住民の 31% が興味を示しているため認証プレート設置による認証制度の波紋効果は期待できる。福岡県建築士会まちづくり委員会委員長と協議し 3. (1) の (ア) ~ (ウ) を基に方針を決定した。この認証基準を照らし合わせ選定した古民家に立花民家認証のプレート設置の交渉を始めている。今後そこからの発展に注視したい。



図-3 立花民家の認証プレート

参考文献

- 1) 松野尾仁美,大庭知子:新宮町立花口区の古民家保存・活用のための認証制度の導入に向けた認証基準の検討,2022.
- 2) 一尾拓矢ほか:立花口区の古民家認証制度活用のための住民意識調査,公益社団法人土木学会西部支部研究発表会概要集,2022.3.
- 3) NPO 法人金澤町家研究会:金澤町家 魅力と活用法,能登印刷出版部,2015.